

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-1

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町道維持業務委託事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、町道の砂利道における車両及び歩行者等の円滑な通行を確保するため、砂利補修及び路面整正を実施する事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単 位 施 策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	4,320千円	4,128千円	4,350千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	4,320千円	4,128千円	4,350千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	財政状況により、砂利補充路線及び路面整正路線が減少されるおそれがある。		砂利道路線延長の維持	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	町道砂利道の円滑な通行の確保を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道砂利道の安全な通行確保が維持される。		① 砂利敷延長 /砂利敷延長の実績	目標年度 19年度 目標値 4,300m 実績値 4,300m 達成度 100%
		② 路面整正延長 /路面整正延長	目標年度 19年度 目標値 230km 実績値 230km 達成度 100%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①民間委託により実施	砂利敷委託は、入札により雄武ノースクリエート事業協同組合が実施した。又、路面整正は、砂利道を熟知しグレーダーの運転ができる運転手を抱えている雄武ノースクリエート事業協同組合より運転手を派遣してもらい実施した。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	町道砂利道の円滑な通行を確保するためには、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、凸凹路面や砂利不足による通行が困難となり交通事故の原因となる恐れがあります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、町道砂利道の凸凹の解消や砂利補充により円滑な通行の確保ができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	砂利の補充材として、平坦部ではズリを使用したコスト軽減を図り、整備延長の確保ができた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
砂利道の安全な通行確保のためには、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
町道砂利道の安全な通行確保のためには、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-2

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	除雪事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、冬期間の幹線道路及び生活道路の交通確保を図るため、除排雪を直営及び委託によって実施する事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単位施策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	51,586千円	47,144千円	52,780千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	51,586千円	47,144千円	52,780千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	財政状況により、排雪や除雪の出動回数が減少されるおそれがある。		冬期間の通行の確保								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	冬期間の幹線通路及び生活道路の交通及び安全性の確保を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の交通及び安全性が確保される。		① 除雪延長 /除雪延長の実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>153.8km</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>153.8km</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	153.8km	実績値	153.8km	達成度
目標年度	19年度										
目標値	153.8km										
実績値	153.8km										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①直営と民間委託による除雪の実施	除雪は、直営分で借上げ運転手4名及び添乗員3名と職員運転手3名で17.8kmを、委託分は雄武ノースクリエート事業協同組合により136.0kmを行った。										
②直営による排雪の実施。	排雪は、不足運転手及び機械を民間より借上げ直営で実施した。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	冬期間の幹線道路及び生活道路の交通及び安全性の確保は、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、冬期間の通行確保が困難となり、町民生活に支障を及ぼす恐れがあります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、冬期間の幹線道路及び生活道路の交通及び安全性は確保されました。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	平成 19 年度は、燃料の高騰があったが、降雪が少なかったため除雪及び排雪回数が抑えられた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
冬期間の除排雪は、交通確保上必要不可欠なものである。計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
冬期間の除排雪は、降雪量により左右されるが、交通確保のためには必要不可欠であることから、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-3

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町道排水管路清掃事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、雨水等の円滑な排水を促し、道路排水の流量確保や豪雨などによる家屋等への浸水を防ぐため、定期的に町道の排水管路（横断管及び柵含む）の清掃を実施する事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単 位 施 策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	4,494千円	4,599千円	4,600千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	4,494千円	4,599千円	4,600千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題や二一ズは】	財政状況により、清掃排水管路延長が減少されるおそれがある。		清掃排水管路延長の維持	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	道路排水の流量を確保することにより、快適な通行や浸水防止を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	円滑な排水を促し、豪雨等による家屋等への浸水を防ぐことができる。		① 清掃管路延長 /清掃管路延長の実績	目標年度 目 標 値 実 績 値 達 成 度
		②	目標年度 目 標 値 実 績 値 達 成 度	年度 %
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①民間委託により実施	排水管路の清掃は、見積によりm単価を決め、受注業者調査結果を参考の上、排水管路清掃路線を決定し実施しています。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	道路排水の流量確保をすることは、快適な通行や浸水防止からも町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しなかった場合、排水管閉塞による浸水被害等が発生する恐れがあります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、円滑な排水を促し、豪雨による家屋等への浸水を防いでいます。
有効／概ね有効／課題あり		

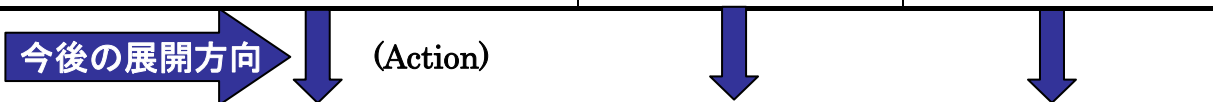
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	見積り合わせの最低単価の採用により事業費が抑制できたことと受注業者の調査により、排水管路の閉塞箇所の特定ができ、適切な排水管路の清掃ができた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
円滑な排水と浸水防止のためには、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
道路排水の流量確保は、円滑な排水と浸水防止のためには、必要不可欠であることから、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-4

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	道路区画線塗装事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、町道の舗装路面において、車両通行により薄くなり見えにくくなった中心線や外側線を塗装し直し、車両や歩行者の通行の安全を確保する事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	20	防犯・交通安全の推進	
	単 位 施 策	2	交通安全対策の推進	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	759千円	496千円	800千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	759千円	496千円	800千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	財政状況により、塗装延長が減少されるおそれがある。		塗装延長の維持		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	舗装道路の中心線や外側線を塗装することで車両や歩行者の通行の安全を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	車両や歩行者の通行の安全が確保される。		① 塗装延長 / 塗装延長の実績	目標年度	19年度
			目標値	7,800m	
			実績値	7,850m	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①民間委託により実施	住民生活課予算(住民活動費)と合算し、入札により委託発注し実施しています。(H19 総委託費：1,596千円、実績総塗装延長：18,665m)				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	舗装道路の薄くなった中心線や外側線を塗装することは、車両や歩行者の通行の安全を図る上で、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しなかった場合、交通事故の原因にもなりかねません。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、薄くなった中心線や外側線がはっきり視認でき、交通の安全が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

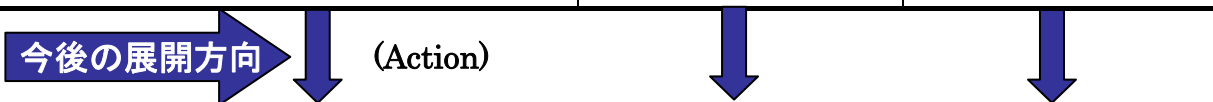
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	入札により事業費が抑制できたことと舗装道路の薄くなった中心線や外側線を調査し、必要路線の適切な塗装ができた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当
 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
舗装道路の交通安全確保上、中心線や外側線塗装は、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
舗装道路の中心線や外側線がはっきり視認できることは、交通の安全確保のため必要不可欠であり、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-5

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町道防雪柵設置工事			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、主に郡部町道における除雪路線の円滑なる通行の確保と除雪事業の効率化を図るため、特に吹溜りの激しい箇所には防雪柵を設置する事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単位施策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	2,092千円	2,078千円	2,210千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	2,092千円	2,078千円	2,210千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	財政状況により、防雪柵設置延長が減少されるおそれがある。		防雪柵設置延長の維持								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	冬期間の吹溜りが激しい路線の円滑な交通を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の吹溜りが激しい路線の交通及び安全性を確保される。		① 設置延長 /設置延長の実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>940m</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>940m</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	940m	実績値	940m	達成度
目標年度	19年度										
目標値	940m										
実績値	940m										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①設置は民間業者による工事の実施	防雪柵の設置は、入札により民間に工事発注し実施しています。										
②撤去費は直営で実施	防雪柵の撤去は、直営により機械をリースし、派遣運転手及び企業組合作業員により3月中旬頃に実施しています。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	冬期間の吹溜りの激しい路線箇所に防雪柵を設置し、円滑な通行の確保と除雪作業の効率化のためには、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、吹溜りによる通行障害が発生する恐れがあります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、円滑な通行の確保と除雪作業の効率化が図れた。
有効／概ね有効／課題あり		

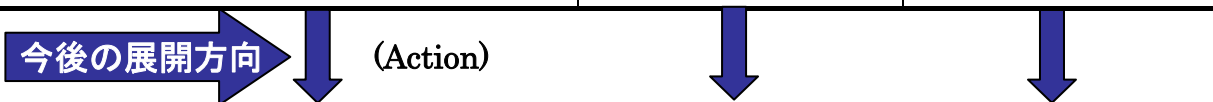
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	入札により事業費が抑制できたことと除雪路線の円滑な通行と除雪作業の効率化のために、吹溜り路線箇所に防雪柵を設置することができた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
冬期間の吹溜りの激しい除雪路線箇所に、計画どおり防雪柵を設置し、円滑な通行が図られたことは、適当であると判断する。		



継続／現状維持		
除雪路線の円滑な通行確保と除雪作業の効率化のために、吹溜りの激しい路線箇所の防雪柵設置は必要であり、当分は現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-6

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町内小工事代			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
				佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町道の舗装、排水、法面等の応急的補修工事に対応するための事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単位施策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	8,570千円	9,326千円	10,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	8,570千円	9,326千円	10,000千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	財政状況により、工事費が減少されるおそれがある。		応急補修による安全確保		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	町道の舗装、排水等の応急補修による現況復元を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町道の通行の安全確保が維持される。		① 補修工事の発注	目標年度	19年度
		／補修工事の実績	目標値	9件	
			実績値	9件	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①民間業者による工事の実施	入札及び見積り等により民間に工事発注し補修を実施しています。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	町道の舗装、排水等の応急的な工事により、通行の安全を確保することは、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、町道の危険箇所が増え、通行に支障が出て、事故の発生を及ぼす恐れがあります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、通行の安全の確保が図れた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	入札及び見積り等により事業費が抑制された補修工事のできたので、概ね効率的に実施された。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
応急的な補修工事のできたことは、町道の安全な通行上、適当と判断する。		



継続／現状維持		
町道の安全な通行のために、応急的な補修工事に対応することは、必要不可欠であることから、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-7

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	曙1号線道路整備事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、曙地区（曙福祉館付近）の下水道整備に併せて道路整備を行い、この地区の行止りを解消し、交通の利便性を高め、土地利用の促進を図る事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単位施策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	19,698千円	25,032千円	22,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	1,998千円	2,532千円	2,200千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	今後の土地利用の活性化		道路整備延長の維持								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	行止り道路の解消により、地域交通の利便性を旨す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地域交通の利便性から、土地の利用促進が図られる。		① 整備延長 /整備延長の実績	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>220m</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>220m</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	220m	実績値	220m	達成度
目標年度	19年度										
目標値	220m										
実績値	220m										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、道路整備を実施しています。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	曙地区の行止り路線の解消による地域交通の利便性の向上と土地の利用促進のため、平成 20 年度の完成を目指し、町が担う必要な継続事業であります。当該事業を実施しない場合、行止り道路の解消が出来なくなり、土地利用の促進が図れなくなる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業は、平成 20 年度の完成を目指した道路整備事業であるため、平成 19 年度の目標は達せられた。
有効／概ね有効／課題あり		

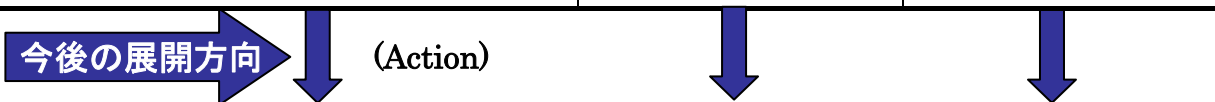
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	設計に再生コンクリートを路盤材で採用しコストを下げたことと入札により事業費が抑制されたことは、平成 20 年度の完成に向け、平成 19 年度の道路整備工事は、概ね効率的に完成した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
3カ年の計画どおり、事業を進めることが適当であると判断する。		



継続／現状維持		
平成 20 年度の完成に向け、継続、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-8

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	宮の森3号線歩道整備事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
				佐竹邦夫
事業の概要	本事業は、町道宮の森3号線沿いに住宅が建設されたことにより、未整備だった歩道を整備し、歩行者の安全を確保する事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単 位 施 策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	0千円	3,854千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	454千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	事業終了により特になし。		歩道整備延長		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	歩行者の安全な通行を目指した。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	歩行者の安全確保ができた。		① 整備延長	目標年度	19年度
		／整備延長の実績	目標値	234m	
			実績値	234m	
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、歩道整備を実施しています。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	歩行者の安全を確保するため、歩道未整備箇所を整備することは、町が担う必要があった事業であります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	歩道整備完成により、歩行者の安全が確保された。
有効／概ね有効／課題あり		

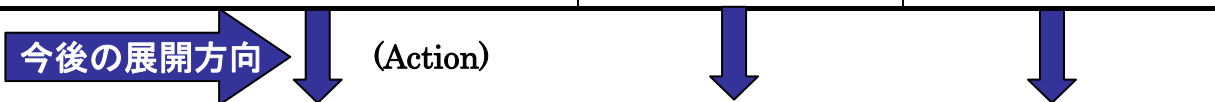
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	再生素材の使用によりコストを下げたことと入札により事業費が抑制されたこの歩道整備工事は、概ね効率的に完成した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
計画どおり事業を進めることができた。		



終了		
平成19年度で完成した事業です。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-9

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町道沢木臨港線用地確定測量委託事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、町道沢木臨港線の排水管等が一部民地に入っていたのが判明したので、この用地を確定し、用地交換により町道用地にするための事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単位施策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	0千円	101千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	101千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	処理が完了したので特になし。		用地の確定		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	一部民地となっていた道路排水用地を町道用地にすることを目指した。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	土地の交換により民地にあった排水等の土地が町道用地になった。		① 用地確定測量	目標年度	19年度
		／用地確定測量	目標値		
			実績値		
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①町内民間測量業者に委託	用地測量に実績のある町内の測量業者に委託した。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	町が管理すべき町道の排水管等が民地に入っていたので、この部分を町道用地にするための測量であることから、用地確定の測量は、町が担う必要があった事業であります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	用地交換により、道路排水等の用地が町道用地となった。
有効／概ね有効／課題あり		

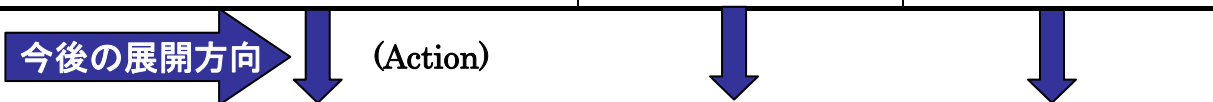
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	過去にこの地区で用地測量実績のある町内測量業者と随意契約をすることにより、コストの軽減が図れた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
計画どおり事業を進めたことにより、用地処理が完了し、町道管理上支障がなくなった。		



終了		
用地処理が完了した。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-10

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町道音稲府12号線用地確定測量委託事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、町道音稲府12号線の流末排水路が民間敷地にあったことによる流末排水路の変更のため、民地用地の一部を町道用地とするための用地確定測量委託事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	16	交通体系の整備	
	単位施策	1	道路環境の向上	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	0千円	195千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	195千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	事業完了により特になし。		道路排水用地の確定		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	一部民地にかかっていた道路排水用地を、町道用地にすることを旨とした。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路排水用地を確定したことにより、一部民地の用地が寄付により道路用地となった。		① 用地確定測量 /用地確定測量	目標年度	19年度
			目標値		
			実績値		
			達成度	100%	
		②	目標年度	年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①町内民間測量業者に委託	用地測量に実績のある町内の測量業者に委託した。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	町道の流末排水路の変更により、排水路の一部が民地であったため、この部分を町道用地とするための測量であることから、町が担う必要があった事業であります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	用地確定により、一部民地の排水路用地が寄付で町道用地となった。
有効／概ね有効／課題あり		

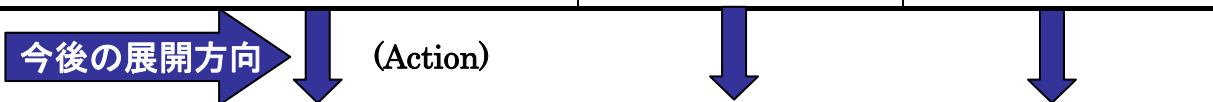
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	過去にこの地区で用地測量実績のある町内測量業者と随意契約をすることにより、コストの軽減が図れた。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
計画どおり事業を進めたことにより、用地処理が完了し、町道管理上支障がなくなった。		



終了		
用地処理が完了した。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-11

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	オタコムシュベツ川改修事業			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、草地への冠水を防ぐため、平成12年度より計画的に河川改修を実施している事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	19	消防・救急・防災体制の強化	
	単位施策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	3,801千円	3,875千円	4,500千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	3,801千円	3,875千円	4,500千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、河川	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	平成20年度の用地確定測量で事業が完了するため、特になし。		護岸の改修延長	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	豪雨、融雪出水時の草地への冠水防止を目指した。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害の未然防止が図れた。		① 改修延長	目標年度 19年度 目標値 47m 実績値 47m 達成度 100%
		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事発注し、河川改修を実施しています。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	草地への冠水を防ぐため、計画的に河川改修を実施することは、町が担う必要がある事業であります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	豪雨や融雪出水時に草地への冠水を防ぐことができた。
有効／概ね有効／課題あり		

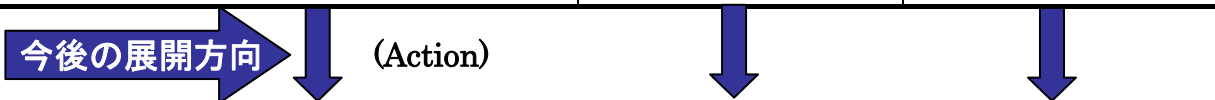
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	入札により事業費が抑制された改修工事ができたので、概ね効率的に実施された。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
河川改修事業を計画的に進めることができたことは、災害未然防止上、適当であると判断する。		



継続／現状維持		
工事については、平成 19 年度で終了するが、河川改修を実施したことにより、河川用地が大幅に異なったので、これを解消すべく平成 20 年度は用地確定測量を実施するものであります。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 9-12

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	町内河川小工事代			
評価者	担当課・係名	建設水道課・土木管理係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	大場利昭	氏名
				課長補佐
				氏名
事業の概要	本事業は、町内河川の応急的補修等に対応するための事業であります。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	19	消防・救急・防災体制の強化	
	単 位 施 策	1	災害予防対策・危機管理対策の強化	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,471千円	2,189千円	2,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,471千円	2,189千円	2,000千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民、河川	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	財政状況により、工事費が減少されるおそれがある。		応急補修による安全確保	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	町内河川の応急補修による現況復元を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	災害の未然防止が図られる。		② 応急工事の発注	目標年度 19年度 目標値 2件 実績値 2件 達成度 100%
		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①民間業者による工事の実施	入札及び見積りにより民間業者に工事発注し、補修工事を実施しています。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	町内河川の応急的な工事により、災害を未然に防ぐことは、町が担う必要がある事業であります。当該事業を実施しない場合、豪雨時の河川決壊等の災害が起きるおそれがあります。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、決壊等の災害を未然に防ぐことができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	入札及び見積り等により事業費が抑制された補修工事があったので、概ね効率的に実施された。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
災害の未然防止のため、応急的な補修工事ができることは、適当と判断する。		



継続／現状維持		
災害の未然防止のために、応急的な補修工事に対応することは、必要不可欠であることから、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項